

## 2021 年度中京大学英米文化・文学会 春季特別講演会

「スピヴァクはクツェーをどう読んできたか？  
— 他者表象の問題をめぐる」

木村茂雄氏（名古屋外国語大学教授）

7月13日の5限に中京大学英米文化・文学会春季特別講演がZOOMで開催された。今年度は、ポストコロナル文学・理論研究で著名な木村茂雄氏（名古屋外国語大学教授）を講師としてお招きし、「スピヴァクはクツェーをどう読んできたか？ — 他者表象の問題をめぐる」と題された講演をしていただいた。

その講演において木村氏は、インド出身のポストコロナル思想家ガヤトリ・スピヴァクと南アフリカ出身でノーベル文学賞作家であるJ・M・クツェーのテキストを取りあげられた。とりわけ、スピヴァクの思想を理解する上で、語る という行為は無視できない。しかし、彼女が伝えようとする、その 語り の脱構築的な性質を簡単に説明することは難しいだろう。スピヴァクは、他者について 語る という行為の、その積極的な意味をただ無邪気に礼賛することはない。彼女は、語る という行為のアポリアに正面から向き合い、たとえば 語る こと自体が他者への暴力になる可能性もあること、さらには、一見、消極的と思われがちだが、他者が / を 語らない という行為の中にも積極的な意味があることを指摘するのである。

講演で、個人的にまず興味深かったのは、木村氏が、スピヴァッ

クの1991年の論文「周縁の理論 — デフォーの『クルーソー』 / 『ロクサーナ』を読むクッツェーの『フォー』」を注意深く再読されていた点である。その中で、木村氏は、植民地主義のイデオロギーに色濃く染められた思考体系や社会で「犠牲者」として位置付けられてきた人々の中に、ある種の「主体性」を見出そうとするスピヴァクの姿勢に目を向け、他者を語ることの不／可能性、またはその「責任=応答可能性」について熱心に説明されていた。氏の正確なテキスト読解を通して行われたその説明には説得力があった。

加えて、印象的だったのは、講演の最後で氏が聴講者に「惑星思考」のできる人間になってください」と呼びかけられていたことである。惑星思考を通じて他者を語ること——これまでとは違う、新たな視点から他者を想像していくことは、たとえば人種主義が日に日に巧妙な形であらわれている現代のグローバル社会を批判する上でも、また今後、より他者に関われた社会を想像／創造していく上でも重要だといえるだろう。

本講演の参加者の中には、国際英語学部英語圏文化専攻の学生や教員以外に、他学部、さらには他大学の学生や教員の姿もあった。講演の後には活発な質疑も交わされ、講演会は盛況のうちに終わった。

(中京大学国際英語学部国際英語学科英語圏文化専攻准教授 杉浦清文)

## Fall Special Lecture Report:

"Working with Non Profit Organization (NPOs):  
My Journey Working in NPOs and Could Working  
in NPOs Be Right for You."

Suzanne Kingston

On January 18th, 2022 the British and American Studies program held a special online Job Hunting seminar for 3rd year students. Ms. Suzanne Kingston of Saint John, New Brunswick, Canada, was our guest lecturer. Ms. Kingston drew upon her own work experience in her lecture titled "Working with Non Profit Organization (NPOs): My Journey Working in NPOs and Could Working in NPOs Be Right for You." Ms. Kingston gave an overview of her education and career in Non-Profit Organizations before focusing on the skills needed in her current position as director of the New Brunswick Adoption Foundation (Canada). To give students a chance to consider a career in the Non Profit sector, Ms. Kingston highlighted the positive and negative aspects of working in an NPO, noting that working at an NPO allowed her to combine her own passion for social justice, her education, and her personal qualities into a long term rewarding career. Finally, using the Japanese concept of *ikigai*, she advised students to consider their own skills, passions, and the needs of society when choosing their own careers.

(中京大学国際英語学部国際英語学科英語圏文化専攻教授  
クリストファー・J・アームストロング)